

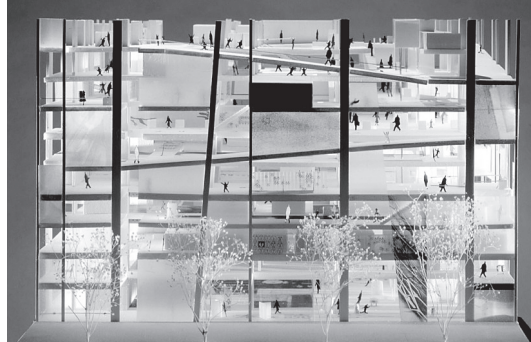
ARCHITECT/2.0

ARCHITECT 2.0 WEB世代の建築進化論

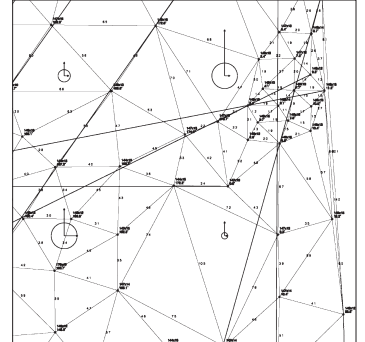
ARCHITECT 2.0 The Evolutionary Theory of Architecture on the WEB Generation



〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-10-1 3F
tel. 03-3498-6990 | info@gyre-omotesando.com
www.gyre-omotesando.com



古谷誠章 | せんだいメディアテークコンペティション二等案 [1995]
Nobuaki Furuya / ©Satoshi Asakawa



徳山知永 | re:Schematic [2009]
Tomonaga Tokuyama / ©Tomonaga Tokuyama

INFORMATION

2009/8/1/sat - 8/30/sun

EYE OF GYRE / GYRE 3F / 表参道

主催 GYRE | 企画監修 飯田高誉
キュレーション 藤村龍至 / TEAM ROUNABOUT
入場無料 | 11:00-20:00 | 不定休
• 8月17日[月] 全館休館日

隈研吾 + NTTファシリティーズ

古谷誠章

ヨコミゾマコト

日建設計

MVRDV + 竹中工務店

中央アーキ + 樋口兼一

伊庭野大輔 + 藤井亮介

徳山知永

TEAM ROUNABOUT

mashcomix

越澤太郎

1995年以後の都市状況と 建築表現の関係を考える

本展覧会は、フランス国立近代美術館(ボンビドゥーセンター)で2011年に開催される「ジャパン・アーキテクト展 1945-2010」を契機に、同センター副館長フレデリック・ミゲル氏が本展のために寄せたテキスト「日本の建築の来るべきアイデンティティ」をもとに建築表現と社会状況の関係を探ろうとする展覧会です。ここでは、戦争によって日本の都市が灰燼と帰し、終戦を迎えた「1945年」、そこから復興し、高度経済成長の象徴的なイベントとなった大阪万国博覧会が開催された「1970年」、さらに「阪神大震災」や「オウム真理教事件」が起こり、「windows95」が発売され「インターネット元年」と呼ばれた「1995年」をターニングポイントとして捉え、情報インフラの拡大により新たな状況を獲得しつつある「1995年以後」の都市を描くためのコンセプトをWEB社会の建築表現のなかを探ることを通じて、現代日本建築のアイデンティティの所在について考え、戦後日本建築史を遡る契機とします。

NOTICE

本展覧会は、ボンビドゥーセンター副館長フレデリック・ミゲル氏と企画監修者飯田高誉との私的な意見交換のもと構想されているものです。ボンビドゥーセンターおよび「ジャパン・アーキテクト展」との公式的な協力関係はございません。

PRESS

お問い合わせ先 : ARCHITECT JAPAN 2009事務局 藤村龍至建築設計事務所内[担当:西村祐一] Tel.03-3476-6508 office@ryujifujimura.jp
HiRAO INC. [担当:御船誠一郎] Tel.03-5771-8808

【出展者】

隈研吾

1954年神奈川県生まれ。1979年東京大学大学院修了後、コロンビア大学建築・都市計画学科客員研究員(1985-86年)などを経て、1990年隈研吾建築都市設計事務所設立。1998年慶應義塾大学環境情報学部特別招聘教授。2002年慶應義塾大学理工学部客員教授。2007年慶應義塾大学理工学部教授。2009年東京大学大学院工学系研究科教授

NTT ファシリティーズ

● **平山文則** 1955年福岡県生まれ。1981年九州大学大学院工学研究科建築学専攻修了。1981-85年電電公社建築局、近畿電気通信局建築部。1985-94年NTT建築部。1994年-NTTファシリティーズ、現在建築事業本部設計部長

【出展作品】 朝日放送本社屋[2008]

古谷誠章

1955年生まれ。1978年早稲田大学建築学科卒業。1980年同大学院修士課程修了後、同大学助手、近畿大学講師を経て、1986-87年文化庁芸術家在外研修員としてマリオ・ボッタ事務所在籍。90年近畿大学工学部助教授。1994年早稲田大学助教授。NASC設立(共同:八木佐千子)。1997年早稲田大学教授

【出展作品】 せんだいメディアテーク2等案[1995]

ヨコミゾマコト

1962年神奈川県生まれ。1984年東京芸術大学美術学部建築科卒業。1986年東京芸術大学美術学部建築科大学院修了後、1988-2001年伊東豊雄建築設計事務所。2001年aat+ヨコミゾマコト建築設計事務所設立。2009年東京芸術大学准教授。

【出展作品】 富弘美術館[2005]

日建設計

● **山梨知彦** 1960年神奈川県生まれ。東京芸術大学、東京大学大学院を経て、日建設計

● **羽鳥達也** 1973年群馬県生まれ。武蔵工業大学、同大学院を経て、日建設計

● **石原嘉人** 1980年京都府生まれ。京都工芸繊維大学、同大学院を経て、日建設計

● **川島範久** 1982年神奈川県生まれ。東京大学、同大学院を経て、日建設計

【出展作品】 W-PROJECT[2009]

MVRDV

ヴィニー・マース(1959年オランダ生まれ)、ヤコブ・ファン・ライス(1964年オランダ生まれ)、ナタリー・デ・フリイス(1965年オランダ生まれ)からなる建築家ユニット。1991年設立。GYREのデザイン・アーキテクトとして迎えられる

竹中工務店

● **新城功雄** 1951年富山県生まれ。1975年大阪大学工学部建築工学科卒業。1977年大阪大学大学院修士課程修了。1977年-竹中工務店。現在、竹中工務店設計部副部長

● **結城哲治** 1960年愛知県生まれ。1983年京都大学工学部建築学科卒業。1985年京都大学大学院修士課程修了後、竹中工務店。1991年-1999年竹中ヨーロッパ。現在、竹中工務店設計部課長

● **垣谷伸彦** 1977年愛知県生まれ。1999年京都大学工学部建築系学科卒業。2001年京都大学大学院修士課程修了後、竹中工務店。現在、竹中工務店設計部主任

【出展作品】 GYRE[2007]

中央アーキ

● **上領大祐** 1978年東京都生まれ。東京理科大学大学院を経て、中央アーキ共同主宰

● **坂下加代子** 1976年和歌山県生まれ。大阪芸術大学、東京理科大学大学院を経て、中央アーキ共同主宰

● **松本悠介** 1977年愛知県生まれ。東京理科大学大学院を経て、中央アーキ共同主宰

樋口謙一

1975年生まれ。1999年瀧本幹也氏に師事。2004年独立

【出展作品】 新スケープ[2007/写真]

伊庭野大輔+藤井亮介

TEAM ROUNDABOUT参照

【出展作品】 Blowin' in the wind[2005]

徳山知永

1984年東京都生まれ。京都大学農学部地域環境工学科卒業。FABRICA(イタリア)インタラクティブアート部門在籍。隈研吾、石上純也らにCADソフトを提供

【出展作品】 re:Schematic[2009]

【キュレーター】

TEAM ROUNDABOUT

建築家、編集者、グラフィックデザイナーからなるメディアプロジェクトチーム。2002年、藤村龍至と山崎泰寛により活動開始、2007年より現編成。「議論の場を設計する」をスローガンにフリーペーパー「ROUNDABOUT JOURNAL」の発行、イベント「LIVE ROUNDABOUT JOURNAL」の開催等を行うほか、書籍の出版、全国各地でのシンポジウムの開催、展覧会のキュレーションなどを精力的に展開し、独自の現代日本建築・都市論を提示している。

www.round-about.org

● **藤村龍至** 1976年東京都生まれ。東京工業大学大学院、ヘルラー・ヘインスティテュート、ISSHO建築設計事務所共同主宰を経て、藤村龍至建築設計事務所主宰

● **山崎泰寛** 1975年島根県生まれ。横浜国立大学、京都大学大学院を経て、『建築ジャーナル』編集部勤務

● **伊庭野大輔** 1979年東京都生まれ。東京工業大学大学院を経て、日建設計勤務

● **藤井亮介** 1981年香川県生まれ。東京工業大学大学院を経て、坂倉建築研究所勤務

● **松島潤平** 1979年長野県生まれ。東京工業大学大学院を経て、隈研吾建築都市設計事務所勤務

● **本瀬あゆみ** 1980年長野県生まれ。東京芸術大学、東京工業大学大学院を経て、隈研吾建築都市設計事務所勤務

● **刈谷悠三** 1979年東京都生まれ。大阪工業大学、東京工業大学研究生、アトリエ・ワンを経て、schtUcco勤務

【コラボレーター】

mashcomix

1999年結成。漫画家、イラストレーター、デザイナーなどで構成される創作漫画集団。現在までに7冊の同名漫画雑誌を発行。また、一軒の家屋をすべて使った「HOUSE」展、池尻中学校での「RANDSEL」展などの展示活動から、雑誌「TOKION」「建築雑誌」での連載、「N.Y.TOKYO BAR」の内装アートワークなど、多岐にわたり活動中。

越澤太郎

1978年石川県生まれ。慶應義塾大学を経て、2001年電通入社。コピーライター。アメリカOne showシルバー、アジア太平洋広告祭(Ad Fest)シルバー、東京コピーライターズクラブ(TCC)審査委員長賞、同新人賞、ギャラクシー賞など受賞。